

FUKUSHIMA 市民 インタビュー

待ちに待ったグランドオープン

写真美術館運営委員会 委員長

嶋原 明寿 さんに聞きました！



対して協力をしたり、施設の運営全般に関わる内容などについて提言をしていくことが主な活動です。企画展などが開催される際には、素晴らしいものとなるように、

写真美術館の魅力をお聞かせください

29日は待ちに待ったグランドオープンです。市有形文化財の建物は震災で壊れてしまいましたが、復元することができました。また、被災前は1階のみの開放でしたが、グランドオープンでは2階も使用できるようになります。多目的室には「流し」を完備したので、絵画や書などの企画展示や教室を開催することも可能となり、幅広い層でご利用いただけると思います。

今後の展望や目標についてお聞かせください

信夫山の南側、祓川沿いは古閑裕而記念館、ふくしん夢の音楽堂、とうほう・みんなの文化センターや県立美術館などがあり、まさに「文化振興ゾーン」です。その中で写真美術館のオープンは大きな意味があると思います。

運営委員会の活動内容をお聞かせください

市のイベントや文化事業に



現代において「写真」はより身近なものであり、私たちの生活の一部となっています。写真はともにも美しいものであり、見る者を魅了します。ですが、誤った使い方をすると他人を傷つけてしまうこともありま。今後は教育の分野でも「写真」の芸術性や素晴らしい使い方が議論されていく事でしょう。子ども達に「福島に生まれ育つてよかった」と思ってもらえるよう、運営委員会としてできることがあれば、お役に立ちたいと考えています。



We Love ふくしま！ 第37回『ゼロカーボンな福島に』

福島市の今年の桜の開花は3月25日。寒い冬から足早に春が訪れ、平年より15日も早い観測史上最速の開花でした。花見山の多様な花も、多種の桜を始め一斉に満開を迎えました。百花繚乱の様相は、今年はひととき絢爛に、儚く終わってしまったような気がします。

モモやリンゴの開花も、2～3週間早いとか。今後のスケジュールを早めなくては。

最高気温、最多降水量など、毎年のように気象に関わる「史上最○」が続きます。そして災害の多発・激甚化、熱中症、農作物の不作など、社会に大きな影響を与えています。

背景に地球温暖化があるのは間違いありません。世界が力を合わせて、二酸化炭素排出量の削減に努め、温暖化を食い止めなければなりません。

福島市では、脱炭素化に率先して行動しようと、2月25日、「ゼロカーボンシティ宣言」をしました。2050年度温室効果ガス(二酸化炭素)排出量実質ゼロを目指し、積極的に取り組

みます。

市の事業としては、公共施設や住宅での太陽光発電を推進し、今年度から蓄電池などの導入を支援します。蓄電池は災害時の停電の際に特に効果的です。水素など再生可能エネルギーを幅広く利活用していきます。

シェアサイクルなど自転車利用を促し、公用車更新は原則電気自動車やハイブリッド車、公用車やシェアサイクルの充電は市のごみ発電を利用します。ごみの減量化にさらに取り組み、森林整備、木材活用、くだもの産地維持で温室効果ガス吸収を高めます。

しかし、最も大切なのは、一人ひとりが意識を変え、生活様式を変容させること。「もったいない」の精神で、省エネ・省資源な生活を送り、クールチョイス(賢い選択)を進めましょう。支援制度を活用し、太陽光発電や蓄電池、低公害車などの導入を進めてください。今年度から雑紙収集を始めたので、一層の分別収集もお願いします。

また、環境問題に熱心な企業を評価し、その製品やサービスを積極的に利用する。そのことが社会を大きく動かしていきます。

美しく安心安全な福島を未来へと引き継ぎ、いつまでも快適に暮らし続けていきたいものです。

福島市長 木幡 浩